

## 産業振興計画の取り組み状況（主な取り組みの結果、成果等）

### 目 次

1	連携戦略	1
2	農業分野	5
3	林業分野	8
4	水産業分野	10
5	商工分野	11
6	観光分野	13

産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【連携戦略】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎地産地商の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「おいしい風土こうちサポーター」店の協力による販路拡大支援</li> <li>◆高知市と生産地のパイプの強化</li> <li>◆ものづくりの地産地消の促進</li> </ul>	<p>【地域AP関係、農林水産業等機械、企業研究会関係の機械・施設等の情報収集中】</p>	<p>商談成立(米粉製品、酒類、トマトソースなど)</p> <p>◆地域ニーズの提供や県内マッチングの推進 ⇒ ユズ等搾汁施設の高知県工業会との連携による研究</p>	<p>◆高知市内量販店8社と県内事業者42社との商談会開催 ⇒ [6事業者(のべ12量販店)商談成立 6事業者が商談継続中]</p> <p>◆高知市アンテナショップの開設(予定) 2月19日(金)「まちくじら(新京橋フラザ)」にオープン テストマーケティングも含めた県内各地域の製品の販売など</p> <p>地域AP</p> <p>←→P11再掲</p> <p>◆高知県地産外商公社の設立(21年8月3日) 地産外商戦略の核として、首都圏の新アンテナショップの開設準備や県内外で行われる展示会・商談会への出展、高知フェアの開催 ⇒ 展示会・商談会への出展、高知フェアの開催 [48件(予定含む): 1/18時点] [商談成立45件 公社の紹介を契機として商談中200件程度: 1/22時点] ⇒ 新しい首都圏アンテナショップ: 22年度夏頃オープン予定 販売する商品の応募 [146業者 481商品 (1/18時点)]</p> <p>◆食博覧会・大阪への出展(8事業者)</p> <p>◆2010スーパーマーケットトレードショーへの出展(10事業者)と事前セミナー(3回)と事後のフォローアップ</p> <p>◆コンビニエンスストアとの包括業務提携(2件) ⇒ 県産食材を使用した商品開発 (28点: 小夏のスイーツ、米粉パン、さばめしおにぎりなど)</p> <p>◆貿易コーディネーター4名配置し、県内企業のべ100社以上訪問 ←→P11再掲</p> <p>◆国内輸出商談会[16社参加] ←→P11再掲 ⇒ [7社(ユズ製品など)商談成立]</p> <p>◆海外商談会(韓国:3社) ⇒ 交渉継続中 ←→P11再掲 (香港:6社) ⇒ [3社12品目(ユズ製品、酒など)商談成立]</p> <p>◆シンガポール伊勢丹四国フェア(6社) ⇒ [3社6品目(ユズ製品、冷菓など)が1年間の定番化]</p> <p>◆上海シティショールーム常設売場開設(四国4県連携)(11社出展) ←→P11再掲</p> <p>◆上海四国アンテナショップ開設(四国4県連携)(1社出展) ←→P11再掲</p> <p>◆県産品広報紙「ちゃお!高知」創刊(9月16,000部 11月18,000部) ～県産品を県外の方に紹介する広報紙、インターネットでも公開～ ⇒ 「とさぼーたー」への協力 アンケート結果</p> <p>◆県産品総合ポータルサイト「こうちまるごとネット」の開設(10月15日) ～県産品(販売サイトにリンク)・観光・移住情報などの玄関口～ ⇒ Webモニターやアンケートによる消費者情報を収集</p>
<p>◎地産外商戦略の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆商談会・展示会・フェア等の展開</li> <li>◆海外貿易への挑戦</li> <li>◆広報紙を活用した県外における高知ファンクラブの組織化、県産品の情報提供及びインターネットを活用した県産品販売への支援</li> </ul>	<p>◆輸出実施のアドバイス ◆海外売込み時のサポート、フォローアップ ◆県内企業を訪問して輸出素材の発掘</p> <p>◆配布先 9月16,000部(県外10,140部 県内観光施設等5,860部) 11月18,000部( 県外12,200部 県内観光施設等5,800部)</p> <p>アンケートによる広報紙発行にかかる評価(毎号実施) 11月号アンケート結果(ハガキ返信数21件) ・「とさぼーたー」として協力していただける...90% ・「とさぼーたー」として協力するために役立っている...10%</p> <p>ページビュー数 93,925ページビュー(10/16~1/15)</p>	<p>◆高知県地産外商公社の設立(21年8月3日) 地産外商戦略の核として、首都圏の新アンテナショップの開設準備や県内外で行われる展示会・商談会への出展、高知フェアの開催 ⇒ 展示会・商談会への出展、高知フェアの開催 [48件(予定含む): 1/18時点] [商談成立45件 公社の紹介を契機として商談中200件程度: 1/22時点] ⇒ 新しい首都圏アンテナショップ: 22年度夏頃オープン予定 販売する商品の応募 [146業者 481商品 (1/18時点)]</p> <p>◆食博覧会・大阪への出展(8事業者)</p> <p>◆2010スーパーマーケットトレードショーへの出展(10事業者)と事前セミナー(3回)と事後のフォローアップ</p> <p>◆コンビニエンスストアとの包括業務提携(2件) ⇒ 県産食材を使用した商品開発 (28点: 小夏のスイーツ、米粉パン、さばめしおにぎりなど)</p> <p>◆貿易コーディネーター4名配置し、県内企業のべ100社以上訪問 ←→P11再掲</p> <p>◆国内輸出商談会[16社参加] ←→P11再掲 ⇒ [7社(ユズ製品など)商談成立]</p> <p>◆海外商談会(韓国:3社) ⇒ 交渉継続中 ←→P11再掲 (香港:6社) ⇒ [3社12品目(ユズ製品、酒など)商談成立]</p> <p>◆シンガポール伊勢丹四国フェア(6社) ⇒ [3社6品目(ユズ製品、冷菓など)が1年間の定番化]</p> <p>◆上海シティショールーム常設売場開設(四国4県連携)(11社出展) ←→P11再掲</p> <p>◆上海四国アンテナショップ開設(四国4県連携)(1社出展) ←→P11再掲</p> <p>◆県産品広報紙「ちゃお!高知」創刊(9月16,000部 11月18,000部) ～県産品を県外の方に紹介する広報紙、インターネットでも公開～ ⇒ 「とさぼーたー」への協力 アンケート結果</p> <p>◆県産品総合ポータルサイト「こうちまるごとネット」の開設(10月15日) ～県産品(販売サイトにリンク)・観光・移住情報などの玄関口～ ⇒ Webモニターやアンケートによる消費者情報を収集</p>	<p>◆高知県地産外商公社の設立(21年8月3日) 地産外商戦略の核として、首都圏の新アンテナショップの開設準備や県内外で行われる展示会・商談会への出展、高知フェアの開催 ⇒ 展示会・商談会への出展、高知フェアの開催 [48件(予定含む): 1/18時点] [商談成立45件 公社の紹介を契機として商談中200件程度: 1/22時点] ⇒ 新しい首都圏アンテナショップ: 22年度夏頃オープン予定 販売する商品の応募 [146業者 481商品 (1/18時点)]</p> <p>◆食博覧会・大阪への出展(8事業者)</p> <p>◆2010スーパーマーケットトレードショーへの出展(10事業者)と事前セミナー(3回)と事後のフォローアップ</p> <p>◆コンビニエンスストアとの包括業務提携(2件) ⇒ 県産食材を使用した商品開発 (28点: 小夏のスイーツ、米粉パン、さばめしおにぎりなど)</p> <p>◆貿易コーディネーター4名配置し、県内企業のべ100社以上訪問 ←→P11再掲</p> <p>◆国内輸出商談会[16社参加] ←→P11再掲 ⇒ [7社(ユズ製品など)商談成立]</p> <p>◆海外商談会(韓国:3社) ⇒ 交渉継続中 ←→P11再掲 (香港:6社) ⇒ [3社12品目(ユズ製品、酒など)商談成立]</p> <p>◆シンガポール伊勢丹四国フェア(6社) ⇒ [3社6品目(ユズ製品、冷菓など)が1年間の定番化]</p> <p>◆上海シティショールーム常設売場開設(四国4県連携)(11社出展) ←→P11再掲</p> <p>◆上海四国アンテナショップ開設(四国4県連携)(1社出展) ←→P11再掲</p> <p>◆県産品広報紙「ちゃお!高知」創刊(9月16,000部 11月18,000部) ～県産品を県外の方に紹介する広報紙、インターネットでも公開～ ⇒ 「とさぼーたー」への協力 アンケート結果</p> <p>◆県産品総合ポータルサイト「こうちまるごとネット」の開設(10月15日) ～県産品(販売サイトにリンク)・観光・移住情報などの玄関口～ ⇒ Webモニターやアンケートによる消費者情報を収集</p>
<p>◎食品加工の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設・設備の整備</li> </ul>	<p>◎地域AP関連 ◆はちぎん地鶏(肉)(大川村) ←→P6再掲 (株)むらびと本舗の設立 育成舎等の整備による年間6万羽の生産体制の確立 ⇒ 新規雇用8名 (ふるさと雇用再生特別基金事業を活用)</p>	<p>◎地域AP関連 ◆ユズ(果汁等) ←→P6再掲 (高知市土佐山)搾汁施設の整備(10/27竣工) ⇒ 搾汁実績(H20 763t → H21.11月末1,200t) (北川村)搾汁施設の整備(10/25竣工) ⇒ 搾汁実績(H20 1,190t → H21.12.8 2,070t)</p> <p>◆米(米粉)(土佐町) 商談会・販促活動等を実施(関西圏5回、香川県2回、県内5回) 米粉加工品の保管庫(一部は冷凍庫)等の整備 ⇒ 米粉製造量21.9t 米粉関連販売額951万円(11月末) 新規雇用7名 (ふるさと雇用再生特別基金事業を活用)</p> <p>うどん など</p>	<p>衛生管理面の充実により収益増に向けて態勢が整う</p> <p>地産地消・外商の展開 ・コープかがわ(香川県)でれいほくコーナー5店舗で開設</p>

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
		<p>◆茶(基石茶)(大豊町) 基石茶製造に係る推進体制・機器類等の整備 基石茶生産組合法人化に向けた取り組み 基石茶等を使った加工品の開発、販売活動(県外7回 県内20回) ⇒ 基石茶生産量3t 試作品8品 (株)大豊ゆとりファーム3名雇用 (ふるさと雇用再生特別基金事業を活用)</p> <p>◆キジ(肉)(いの町) 加工処理場の改修、冷凍庫の導入、給排水施設改修、真空包装機設置 PR資材作成 飼育・加工・安全安心マニュアル作成 加工商品の開発 広報紙・新聞・イベントでの試食・PR・販売の実施 ⇒ 新規顧客100名から直接注文</p> <p>◆低価格な漁獲物(メサバ・サバのフィレ)(室戸) 旧活魚センター施設(佐喜浜)内に加工施設を整備 加工業者と漁協による連携事業契約の締結 ⇒ H26年度までの5年間累計(予定)原魚買付量約850t 雇用11名</p> <p>◆シイラ加工 &lt;-&gt;P10再掲&lt;-&gt; (香南市夜須)前処理加工施設の整備 シイラ加工人員の確保及び衛生管理体制を整備中 ⇒ 浜値の底上げ(最低価格30円/Kg) 加工人員8名雇用</p> <p>(四万十町)惣菜加工施設の整備 企業組合を設立し加工商品の開発および品質向上に努めた 商談会の実施(2回参加 個別6件以上) ⇒ 浜値の上昇(4-6月期 47円/Kg UP) (7-9月期 74円/Kg UP) 雇用(正職員3名 臨時職員5名) (ふるさと雇用再生特別基金事業を活用) 商談成立3件、1件進行中</p> <p>◆メジカ(前処理加工)(土佐清水市) メジカ選別用作業台の整備により一次処理量が例年の倍程度に増加 農産物集出荷システムの登録農業者(100名) 新商品開発(10アイテム以上) ⇒ 県外への受注生産(5社以上) 新規雇用(正雇用18名 アルバイト・パート月平均16名) (ふるさと雇用再生特別基金事業を活用)</p> <p>◆きびなご個別(バラ)凍結、フリ・サバ・タイ等のフィレ(宿毛) 加工施設の改修工事及び機器等の整備 &lt;-&gt;P10再掲&lt;-&gt; (冷凍車、急速冷凍庫、冷風乾燥機等) 加工施設の営業許可を取得 (魚介類販売業、食品の冷凍又は冷蔵業、魚肉ねり製品製造業) ⇒ 取引先の増加(3社→10社) 販売(キビナゴバラ凍結1.16t 凍結フィレ2.13t) 新規雇用(加工作業員3名 運転手1名) (ふるさと雇用再生特別基金事業を活用)</p> <p>◆乳製品加工(菓子等)(高知市) フードアドバイザーを招聘し、菓子製造機器類の導入及び商品等準備 4月~5月の開店に向けての商品等準備</p> <p>◆芋菓子(日高村) &lt;-&gt;P11再掲&lt;-&gt; 民間事業者による菓子加工施設の整備(22年4月完成予定) ⇒ 新規雇用(5名)</p> <p>◆文旦(リキュール)(土佐市) 酒造メーカーのリキュール製造向け搾汁設備の整備 ⇒ 50t 使用予定</p> <p>◆カット野菜(仁淀川町) &lt;-&gt;P11再掲&lt;-&gt; カット野菜製造に向けた加工用水の供給施設の整備 ⇒ 【取り扱い量 109t → 122t(12%増)】</p>	<p>首都圏のドラッグストアなど販路を県外中心に展開 生産量拡大(目標5.2t(H23)に向けて展開中)</p> <p>低価格な定置網漁獲物の加工・販売を展開して 魚価の向上につなげる</p> <p>市場価値の低い小ぶりのシイラを加工し、付加価値をつけて販売</p> <p>シイラの加工・販売により付加価値を高め、地元の活性化につなげる(すり身、フィレ、コロケ等)</p> <p>少量多品目の地元農水産物の集荷、加工、商品開発、販売を一体的に実施</p> <p>学校給食や病院・介護施設に向けた販路拡大など水産物の有効活用と魚価の下支え及び地域雇用の創出</p> <p>市内の牧場をモデルに酪農教育ファーム活動等を実施 乳製品加工による経営改善のためのモデルづくり 【高知市酪農農業協同組合が実施】</p> <p>耕作放棄地等を活用した加工用芋の生産地と連携した芋菓子の加工 【200t/年間(初年度)】→【360t/年間(3年後)】</p> <p>文旦の規格外品等を加工用に活用</p> <p>町食品加工場の機能拡充により、地元農産物を活用したカット野菜等の加工の取り組みを拡大。県外量販店に向けても販路拡大</p>

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
		<p>◆野菜・きびなご・メダイ(大月町) 新製品開発(キビナゴサーティン、キビナゴ酢漬け、なまひがし、もちひがしきし豆茶、有機野菜、香りなど) 新規加工商品の開発(アイテム増)に対応する特産品加工施設及び通販用セット商品のストック倉庫などの整備 ⇒ 夏のカタログ販売(326件) 顧客名簿(約4,000件)</p> <p>◎その他 ◆本県の誇る素材を生かした加工工場の新増設</p>	<p>インターネット販売、カタログ販売、直販、販促フェアなどの販路拡大</p> <p>ゆず香油企業の工場を県外から誘致(予定) トマトジュース工場の増設 ⇒ 40人規模の雇用創出 芋菓子製造工場の増設(再掲)</p>
◆商品の開発		<p>◎農商工連携基金の活用(こうち農商工連携基金事業) ◆土佐はちきん地鶏の加工商品を開発・販売・PR</p> <p>◆四万十茶葉の需要開拓に向けた商品開発</p> <p>◆高知県産の規格外品野菜や果物を使った加工品(ジュース・乾燥品・ゼリー・パン・酒等)の開発</p> <p>◆仁淀川緑茶(仕上げ茶)と茶を使用した茶菓子のセット商品の開発</p> <p>◎100億円ファンドの活用(こうち産業振興基金事業) ◆高知県産のトマトを使用したこだわりトマトケチャップ等の商品開発及びPR</p> <p>◆自社農園で栽培したユズを活用した商品開発(ユズ果汁、濃縮ジュース、ユズ酒)</p> <p>◎地域AP関連 ◆産業振興の総合補助金の活用(産業振興推進事業) ・宇佐ウルメのブランド化プロジェクト(土佐市) ウルメの加工品の開発、流通・供給体制の確立、販路開拓</p> <p>・黒潮印ビジネス創造事業(黒潮町) 製糖をはじめとする地域産物の加工体制や集出荷体制の構築及び販路開拓</p> <p>○新産業の創出に向けたマッチング &lt;-&gt;P11再掲&gt; (成長分野育成支援研究会:食品・天然素材・環境・健康福祉) 研究会開催[15回] のべ349社444名参加 うち食品[5回] のべ181社240名 フラン化4件 うち食品[1件:高齢者用軟化食]</p> <p>◎その他 ◆高知県産食材の加工を通じた可能性の追求 ・産地と加工者のパイプ作り ・商品開発・試作・レシピ開発支援</p>	<p>など</p> <p>・むね肉を使った加工品及び炭火炙り焼き技術の開発 ・レトルト商品(土佐はちきん地鶏の炊き込みご飯の素などパッケージデザイン等に活用後販)</p> <p>県内茶生産組合の茶葉と県内乳製品メーカーの牛乳を合わせたロイヤルミルクティを開発中(22年4月以降発売予定)</p> <p>・野菜や果物の乾燥品を使った菓子類の駅前のパビリオンでの商品出展に向けパッケージデザインの試作中 ・試作品製造用の設備を導入</p> <p>茶に合う菓子の試作品・パッケージデザインを開発中</p> <p>・県産無農薬トマトの実を使用した高級トマトケチャップ「ジャポシ」は県内おいしいものコンクールで優秀賞。伊勢丹での販売も好調(1400本3月完売予定)</p> <p>建設業の新分野進出(建設業経営革新支援事業)</p> <p>ほか</p> <p>・加工品の開発・製造体制の確立(すり身、パスタソース、フィレ) ・消費者モニタリングの実施</p> <p>菓子類、漬物など</p> <p>◆食品加工企業に対する加工品生産及び販路確保等に対する個別支援(12企業) 水産加工品のフラッシュアップと販路確保 ほか</p>
◆販路の開拓	<p>◆生産管理の高度化</p> <p>業種ごとの自主衛生管理マニュアルを作成(20タイプ)</p> <p>・専門家による生産管理に関する基礎調査及び改善点等の個別指導(20業者) ・アドバイザーによる個別指導(26業者)</p>	<p>◆生産管理高度化の支援【20件】 ◆食品衛生・表示研修の実施【3回:約150企業・団体(210名)】 &lt;-&gt;P7再掲&gt;</p> <p>香美市ブランド品の確立、特産品づくり</p> <p>荒茶から仕上げ茶での販売にシフトし、付加価値向上による生産者の所得の向上につなげる</p>	<p>◎地域AP関連 ◆シカ肉(ソーセージ、もみじバーガー)(香美市) 食品加工・シカ肉講座(3回)の実施 各種イベントによるシカ肉加工品の販路拡大</p> <p>◆仁淀川流域茶 &lt;-&gt;P6再掲&gt; 生産体制の仕組みづくりに向けた実態調査の実施 販促資材の作成、販促活動の実施 ⇒ 販促イベント(6回)</p>

4  
【連携戦略】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆外部の人材を活用した商品の磨き上げ</li> <li>◆工業技術センターの食品加工特別支援員による支援</li> </ul>	<p>企画、販促など事業の様々な過程での地域のニーズに専門家の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域アクションプランに関する支援(7地域、延べ24回)</li> <li>・食品加工企業などに対する個別支援(10業者・団体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆専門家等アドバイザーの派遣等(44名のべ155回12/15時点) 地域アクションプラン関係32名のべ93回 &lt;-&gt;P11再掲&gt;</li> <li>◆加工食品パッケージデザイン支援事業により150事業者支援</li> <li>◆食品関係企業56社に新商品開発の技術支援を実施 栗甘露煮を商品化、9品目(魚介類の薫製品)について商品化支援 四方竹の鮮度保持対策の技術支援を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スーパーバイザー4名(山本謙治・玉沖仁美・熊谷喜八・堀知佐子)の助言・雑誌等での情報発信</li> </ul> <p>高知県の魅力を全国に向けて発信し、その全般的な人的ネットワークを活かし、県産品の販路拡大を目指す</p> <p>「土佐」や「高知」を想起させる土産物の販売に向けた商品PR力を向上するためパッケージデザイン及び製作に係る経費を助成</p>
<p>◎人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆移住・交流促進の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆移住コンシェルジュ[3名] 県外から移住を希望する方や、第一次産業への就業を希望する方々のワンストップ窓口として設置。空き家など住まいの情報や就業研修、農地情報などの仕事の情報をセットにして提供する仕組みを構築 ⇒ 相談件数[約270件:12月末現在]</li> <li>◆滞在型市民農園(クラインガルデン)の整備[四万十町] <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設付農園(滞在型) 区画数:15区画</li> <li>・貸し農園(日帰り型) 区画数:19区画</li> </ul> </li> <li>◆UJターン移住相談会への参加 ⇒ 20回(予定含む)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認定農業者の拡大</li> <li>◆新規就農者の確保</li> <li>◆異業種からの農業参入拡大</li> <li>◆JA出資型法人設立へのステップアップ</li> <li>◆森林施業プランナー育成による営業力の強化</li> <li>◆異業種からの林業担い手への参入</li> <li>◆副業型林家の育成</li> <li>◆漁業の担い手の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認定農業者数:3,755経営体 &lt;-&gt;P6再掲&gt; ⇒ 新規認定:51経営体、再認定:88経営体(再認定率:79.3%)</li> <li>◆新規就農者:161人(前年度114名から41%増) &lt;-&gt;P6再掲&gt;</li> <li>◆市町村における新規就農研修支援事業の取組強化 &lt;-&gt;P6再掲&gt; ⇒ 制度導入(H20:9市町村 → H21:14市町村)</li> <li>◆指導農業者の認定(H20:16市町村29名 → H21:20市町村38名) &lt;-&gt;P6再掲&gt;</li> <li>◆県内6ブロックでの説明会の開催(建設業55業者59名参加) &lt;-&gt;P6再掲&gt; 個別相談会12社(うち5業者が農業分野で個別相談) (法人2社が異業種から農業参入(新規就農4名、経営面積2.5ha))</li> <li>◆設立検討プロジェクトチームの設置(JA土佐れいほく、JA南国市) &lt;-&gt;P6再掲&gt;</li> <li>◆提案型の集約化施業を実践できる森林施業プランナーの育成(17組合、19名) &lt;-&gt;P8再掲&gt;</li> <li>◆建設業からの参入 &lt;-&gt;P8再掲&gt; ⇒ 単独事業体の参入 9事業体 森林組合とのジョイント又は共同体による参入 9事業体</li> <li>◆OJTによる研修を実施 &lt;-&gt;P8再掲&gt; ⇒ 研修生22名 うち5名が副収入や独自の取り組みを始める</li> <li>◆新規研修生を7名確保 &lt;-&gt;P8再掲&gt;</li> </ul>	<p>工業技術センターにおいて外部の専門家を活用しアドバイザー等を設置し、分野ごとに支援</p> <p>【食品加工特別技術支援員】 【技術指導アドバイザー(機械金属、食品加工など)】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆産業を支える技術人材の育成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆技術研修の参加者[619名] &lt;-&gt;P11再掲&gt; (機械金属関係16コース414名、食品関係3コース205人 1/20時点)</li> </ul>	
<p>【予定どおりに進捗しなかったもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆直販所の情報発信機能の強化</li> <li>◆地域で連携して地域資源を発掘・商品化する場づくり</li> </ul>	<p>商工会等を中心に地域資源の活用を協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域資源活用共有会議[7地域 24回] ⇒ 共有会議の進行に温度差があり、活動が低調な地域や、また単なる情報共有にとどまり十分な議論に至らないことから地域APIにつながるケースまでには至らず</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆直販所の情報管理システムの構築の遅れ &lt;-&gt;P7再掲&gt; ⇒ 業務内容の見直し、仕様書の作成の遅れ(1/28入札予定)</li> </ul>

産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【農業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎生産から流通・販売までの一元的支援体制の構築</p> <p>量販店とのパートナーシップの構築</p> <p>中食・外食等の業務筋への販路拡大</p> <p>特産野菜等のコラボレーション</p> <p>特産果樹の販売促進</p> <p>農産物の輸出拡大</p>	<p>・農業者の技術向上</p>	<p>・東急ストア、セイミヤ、関西スーパー、おおさかバルコブとパートナーシップを構築 県産野菜等フェアを実施し、定番化へ</p> <p>・環境型農業のトップランナーの地位を確立する 取りく組みなど、他県野菜と差別化して販売</p>	<p>◆新需要開拓マーケティング協議会の設立</p> <p>◆協力量販店との関係強化と関東、関西での拠点づくり 関東2社、関西1社+生協との戦略共有 東急ストア51店舗において高知フェアほか</p> <p>◆新規取引の開拓: 関東1社 商材提案: 関東5社、関西3社 商品開発: 関東2アイテム</p> <p>◆事業化の決定(2地区) 嶺北(れいほく八菜と畜産・ユズ・米粉など) ⇒香川県の生協 室戸(ハスイモと観光等情報発信) ⇒京都府の量販店</p> <p>◆土佐文旦: 初の県域組織(土佐文旦振興対策協議会)の結成 知事のトップセールス(関西)、商品開発、試験販売(関東)</p> <p>◆新高梨: 県内2大産地における検討の場の設置 針木梨組合と園芸連との取引開始</p> <p>◆東南アジア(台湾、中国、タイ、シンガポール)及びニューヨーク、オランダに向けて消費宣伝、販売を実施(1月25日現在) 園芸連: 台湾(太平洋そごう、微風広場等)、シンガポール(伊勢丹)で 高知フェア等を実施し、約20品目を輸出、オランダ(ホテル オークラ)へクリスマス・正月用にメロンを輸出 JA高知市: シンガポール、ニューヨークに向けてグロリオサの商談会及び 展示販売を実施 JA土佐れいほく: シンガポール伊勢丹でユズ加工品が定番商品化 黒岩梨生産出荷組合: タイに向けて新高梨100ケースを輸出</p>
<p>◎まとまりのある園芸産地の再構築 「学び教えあう場」の充実による収量増</p> <p>有望品目の導入と定着</p>	<p>◆学び教えあう場の設置(H21:計169か所) 安芸集出荷場(ナス) 出荷量: 3,971t(対前年比117%) 18t取り農家: 対前年比4名増(7名→11名) 土佐くろしお集出荷場(ミョウガ) 出荷量: 3,109t(対前年比106.7%) (キュウリ) 出荷量: 3,647t(対前年比111.7%)</p> <p>◆県域の品目別戦略会議の開催</p> <p>◆実証ほ場を設置し、普及促進(アスパラガス、短根ゴボウ、ハスイモ、 葉ニンニク、促成ニガウリ、茎ブロッコリー) ⇒年度販売目標金額5,000万円達成: ハスイモ、パブリカ、アスパラガス</p>		
<p>◎環境保全型農業のトップランナーの地位を確立 IPM技術の県内各地域への普及拡大</p> <p>有機農業の普及拡大</p> <p>世界のトップランナーとの友好園芸農業協定の締結による環境保全型農業の加速化</p>	<p>◆土着天敵温存ハウスの活用(3市町村→10市町村) ⇒天敵導入面積率の増加(ナス類47%、ピーマン類69%、ミョウガ43%)</p> <p>◆有機農業公開セミナーの開催(全国から300名参加)</p> <p>◆有機農業の支援体制を整備する市町村の増加 (H20:6市町村 → H21:10市町村)</p> <p>◆オランダウェストラント市との協定の締結。さらなる発展と飛躍を目指す 機運が醸成 ⇒県産農産物のオランダへの輸出とPRの実施(トマト、メロン、新高梨、 シシトウ、ミョウガ、ピーマン、ニラ、ショウガ、土佐茶、ユズ酢 など)</p>		
<p>◎生活できる所得を確保するこうち型集落営農の実現 こうち型集落営農の展開</p>	<p>◆モデル集落の選定(H20:10集落 → H21:計16集落) ⇒組織の設立(計15集落)、営農計画の認定(計10集落)</p> <p>◆農業用施設や機械の導入により、農作業受委託の体制を整備(7集落)</p> <p>◆米のブランド化による有利販売の実施(本山町吉延集落) ⇒「土佐天空の郷」: 生産量64t(うち吉延31t)</p> <p>地域AP</p>		

6  
【農業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎品目別総合戦略の実践</p> <p>【ミョウガ】</p> <p>【ナス】</p> <p>【ユズ】</p> <p>【米】</p> <p>【土佐茶】</p> <p>【畜産(全般)】</p> <p>【土佐あかうし】</p> <p>【土佐ジロー】</p> <p>【土佐はちきん地鶏】</p>	<p>◆A地区(須崎):5t取りを目標とする農家の8割超が達成(102/125戸)</p> <p>◆B地区(安芸):18t取りを目標とする農家の8割が達成(12/15戸)</p> <p>◆極早生品種「南国そだち」の品質向上(1等米比率55%)と安定生産</p> <p>◆ブランド化を目指した飼料用米給与家畜の生産実証の実施 ⇒米豚(JA四万十)</p> <p>◆低コスト生産のための再生稲や飼料用稲の生産拡大 (H20:16.9ha → H21見込:約34ha) ⇒高知市(※)、佐川町、南国市に加え、新たに四万十町、三原村、 四万十市でも稲発酵粗飼料を生産への取組開始 ※高知市【地域アクションプランの取り組み】</p> <p>◆年間7万羽の生産体制の整備(大川村 &lt;&lt;←P1再掲&gt;&gt;、荻西村)</p>	<p>◆搾汁施設及び機器の整備による搾汁能力の向上 &lt;&lt;←P1再掲&gt;&gt; ⇒JA高知市土佐山支所 搾汁実績(H20:763t → H21.11月末1,200t) ⇒JA土佐あき北川支所 搾汁実績(H20:1,190t → H21.12.8 2,070t)</p> <p>◆荒茶加工施設の老朽化対策による生産量の拡大(3か所)</p>	<p>◆普通期米の販路拡大 ⇒県外の中食、東北地域、県内量販店等での取扱い</p> <p>◆「南国そだち」:栽培面積の拡大(150ha) 販売の促進(695t うち県外600t)</p> <p>◆認知度の向上(広報活動、出前授業等) &lt;&lt;←P3再掲&gt;&gt; ◆商品の充実と販路拡大(一般向、菓子向の販路等) &lt;&lt;←P3再掲&gt;&gt; ◆仕上げ茶の取扱量の増加 &lt;&lt;←P3再掲&gt;&gt; ⇒全農取扱いの販売金額:対前年比154%、数量:対前年比182% 新規取扱店舗:80店</p> <p>◆「土佐牛ブランド推進協議会」の設置、PR活動の展開(新聞広告掲載、 飲食店の紹介パンフレット配布 など) ⇒認知度の向上、販売・飲食店の販路開拓(8件)</p> <p>◆県内外での展示商談の展開(約120件)、PR活動の展開(新聞広告掲載、 飲食店の紹介パンフレット配布 など) ⇒販売・飲食店の販路開拓(14件)</p> <p>◆県内外での展示商談の展開(約150件)、PR活動の展開(新聞広告掲載、 飲食店の紹介パンフレット配布 など) ⇒販売・飲食店の販路開拓(21件) 取扱店舗数:250店(前年度末の188店から33%拡大)</p>
<p>◎担い手の育成と生産資源の保全</p> <p>認定農業者の拡大</p> <p>経営規模の拡大による企業的経営体の育成</p> <p>新規就農者の確保</p> <p>異業種からの農業参入拡大</p> <p>JA出資型法人設立へのステップアップ</p> <p>耕作放棄地の再生利用の推進</p>	<p>◆認定農業者数:3,755経営体 &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt; ⇒新規認定:51経営体、再認定:88経営体(再認定率:79.3%)</p> <p>◆企業的経営シンポジウムの開催(参加者:農家20名を含む84名) ⇒シンポジウム参加農家のうち、8名が企業的経営の検討開始</p> <p>◆新規就農者:161人(前年度114名から41%増) &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt; ◆市町村における新規就農研修支援事業の取組強化 &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt; ⇒制度導入(H20:9市町村 → H21:14市町村)</p> <p>◆指導農業者の認定(H20:16市町村・29名 → H21:20市町村・38名) &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt;</p> <p>◆県内6ブロックでの説明会の開催(建設業55業者59名参加) &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt; ⇒うち、5業者が農業分野で個別相談</p> <p>◆法人2社が異業種から参入(新規就農4名、経営面積2.5ha) &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt;</p> <p>◆設立検討プロジェクトチームの設置(JA土佐れいほく、JA南国市) &lt;&lt;←P4再掲&gt;&gt;</p> <p>◆全市町村に地域協議会を設置 ⇒解消予定面積:19市町村・50.89ha(うち耕作放棄地再生利用緊急対策 交付金活用:7市町・9.06ha)</p> <p>[ 宿毛市:3.6haの大規模な実証ほ場の設置 など ]</p>		

7  
【農業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
◎1. 5次産業の推進 地域加工の展開		◆食品衛生・表示研修の実施(参加:約150企業・個人 計210名) <<←P3再掲>> ◆デザイナーとの商品・デザインの企画検討(40事業者)	
【予定どおりに進捗しなかったもの】			(参考)農業産出額の増加 平成20年農業産出額が5年ぶりに1千億円の大台に乗る ⇒米や野菜の生産量増加、価格上昇により前年比5.4%増 1.026億円
◎担い手の育成と生産資源の保全 農地や遊休ハウス等の情報収集・情報提供	◇県農業公社により収集・提供するための情報量が不足 ⇒就農希望者のニーズを満たせるために、さらなる掘り起こしを実施		
◆直販所の情報発信機能の強化			◆直販所の情報管理システムの構築の遅れ <<←P4再掲>> ⇒ 業務内容の見直し、仕様書の作成の遅れ(1/28入札予定)



産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【林業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎原木の生産の集約化・効率化 「森の工場」の拡大による生産性の向上</p> <p>森林施業プランナー育成による営業力の強化</p> <p>中山間の核となる森林組合の体制強化</p> <p>異業種からの林業担い手への参入</p> <p>副業型林家の育成</p>	<p>◆新規「森の工場」の認定:5,928ha(12月時点の見込) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・今年度目標に対し、88%の進捗率(H21.12)</span></p> <p>◆提案型の集約化施策を実践できる森林施業プランナーの育成(17組合、19名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">&lt;&lt;-P4再掲&gt;&gt;</span></p> <p>◆全ての森林組合が地域に抱える課題の解決に取り組み、うち5森林組合が高い収益力を目指す経営ビジョンを作成 ⇒他の組合についても今後継続して取り組む</p> <p>◆建設業からの参入 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">&lt;&lt;-P4再掲&gt;&gt;</span> ⇒単独事業体の参入 9事業体 森林組合とのジョイント又は共同体による参入 9事業体</p> <p>◆OJTによる研修を実施 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">&lt;&lt;-P4再掲&gt;&gt;</span> ⇒研修生22名 うち5名が副収入や独自の取り組みを始める</p>		
<p>◎大型工場の整備や中小加工事業体の共同・協業化 新たな付加価値による商品力の向上</p> <p>県内加工基盤の強化に向けた取り組み</p>	<p>◆JAS認定工場の資格を取得(3工場) ⇒H20:12工場 → H21:15工場</p> <p>◆大手商社、県外資本の加工業者等との販路拡大に向けた意見交換を実施し、情報収集のパイプを作る <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関東・関西・中京地区の木材市場などの事業体の協力を確保</span></p>		<p>◆性能表示木材の出荷開始(7,840m<sup>3</sup>)</p>
<p>◎流通の統合・効率化 製品流通の改善</p>			<p>◆大消費地に流通拠点の候補地を確保 ⇒今後詳細な詰めを行い事業の実施に繋げる</p> <p>◆共同輸配送や消費地の流通拠点の設置に関するアンケートの実施し、共同輸配送及び消費地の流通拠点のニーズを把握</p> <p>◆県外で建築する県産材利用住宅のCO2固定認証を開始</p>
<p>◎販売力の強化 新たな販売ルートの開拓</p> <p>販売促進チームによる県外消費地での販路拡大</p> <p>公共事業や公共施設での県産材の率先利用</p> <p>県産材を利用した木造住宅の建設促進</p> <p>県産材を利用した木製品の需要拡大</p>		<p>◆大手商社、県外資本の加工業者等との販路拡大に向けた意見交換を実施し、情報収集のパイプを作る(再掲) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関東・関西・中京地区の木材市場などの事業体の協力を確保</span></p> <p>◆地域工務店のネットワーク活動として、高知市の木で家建てる「高知里山の家」の取り組みが始まる</p> <p>◆県外工務店等の訪問(26件 見込) ⇒新たなネットワークづくりやルート開拓への足掛かり</p> <p>◆海外(韓国)への県産材の輸出促進 ⇒韓国木造建築協会との相互訪問、木材貿易セミナーの開催 など</p> <p>◆県産材を使用した建築物の促進、公共事業での木材利用の推進 ⇒23施設で木造化</p> <p>◆県産材を使用した優良な木造住宅の建設促進のためのPR活動や事業説明会を開催(4か所)し、県産木造住宅の建築促進を図る ⇒県産木造住宅への助成 301戸(H22.1.15現在)</p> <p>◆木製バッグ等の新商品開発や既存製品の生産拡大、国内外での販路拡大(エコアス馬路村)</p> <p>◆小中学校等での木製の机・椅子等の導入(26団体、44施設)</p> <p>◆公共的空間などPR効果が高い場所での間伐材を活用した内外装・備品の導入(銀行等5施設)</p> <p style="text-align: right;"><span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">地域AP</span></p>	

【林業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
◎未利用森林資源の有効活用 木質バイオマスの有効活用	◆木質バイオマス(未利用林地残材)の利用量拡大 (H20:4,600t → H21:20,000t)	◆木質ペレット製造施設の整備(2施設:2,200t) ⇒H20:4,300t → H21:6,500t	◆農業用及び県有施設等での木質ペレットボイラーの導入 (新規導入:47台、累計74台)  ◆残灰の有効活用に向けた検討会の立ち上げ
◎森の恵みの活用 土佐備長炭の後継者育成及び生産拡大  シイタケの生産体制の整備  シキミサカキの販路拡大  森林の新たな活用	<p>地域AP</p> <p>◆町内3地域に生産者研究会を設立し、専門家も加えて地域ごとの課題の整理等を行い、全体計画の作成に着手(四万十町)</p> <p>◆定期的な勉強会等を行い、栽培指針の作成や生産者台帳の整備に取り組む(仁淀川町)</p> <p>地域AP</p>	<p>地域AP</p> <p>◆研修寮の設置(2基)による後継者の育成(室戸市木炭振興会)</p> <p>◆共同利用寮の設置(2基)による後継者育成と生産能力の向上、販路拡大に向けた市場調査等の実施(土佐備長炭生産組合)</p> <p>地域AP</p>	<p>◆森の案内人を養成し、森林を活用した学習の機会や人の交流を進める体制の整備 ⇒研修参加者20名</p> <p>◆森林セラピーモニターツアーを開催し、実際に都市部からの参加者の意見を聴き、今後森林を活用した商品づくりに活かす ⇒定員20名に対し45名が応募</p>
◎荒廃森林の解消 間伐推進の取り組み強化  J-VER(オフセット・クレジット)制度を活用した森林整備の推進	◆高知県森林組合連合会及び各森林組合が、自ら間伐目標面積を公表し取り組みを強化 ⇒目標面積 13,700ha	<p>高知県は認証されたクレジットの唯一の販売実績を持つ</p> <p>◆全国初の森林吸収量オフセット・クレジットの認証 ⇒森林整備が促進され、環境(森林)ビジネスを創出</p> <p>◆県内での審査、認証機関の設置に向けた推進体制の整備</p>	◆J-VER(削減)クレジットの販売実績(H22.1.19現在) H20 899t-CO2(1社) H21 86t-CO2(6社+個人) 計 985t-CO2(7社+個人) 【保有残 953t-CO2】
【予定どおりに進捗しなかったもの】  ◎大型工場の整備や中小加工事業体の共同・協業化 大型製材工場の誘致、中小加工事業体の共同・協業化	/	<p>◇誘致企業本社と関連工場を訪問 ⇒経営状況の確認及び進出を要請 ⇒進出へ向けた定期協議の開始(製品種、工場規模、設備投資、原木安定供給体制)</p> <p>◇県内の関係団体等と原木の安定供給体制の整備等について協議 ⇒円滑な進出に向けて関係者が協力していくことを確認</p>	/
◎森の恵みの活用 特用林産物の活用	◇需要者ニーズ調査や研修会を実施 ⇒生産活動への支援や実践研修等への支援が必要	/	/
◎荒廃森林の解消 荒廃森林の解消に向けた管理代行の仕組みづくり	◇課題の整理や取り組みの方向性を検討 ⇒今後もモデル事業の実施などを通して多様な検証が必要	/	/

産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【水産業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎漁獲物の安定確保 「黒潮牧場」の新設による漁獲増への貢献</p> <p>カツオの活餌供給による県内市場への水揚げの促進</p> <p>漁業の担い手の確保</p>	<p>◆3基の「黒潮牧場」を新たな場所へ設置(H22完成) <span style="float:right">漁獲効率の向上</span></p> <p>◆黒潮町佐賀地区では地元カツオ船への活餌供給体制が確立し、平成22年1月から供給を開始(高知の漁港に寄港を促す) ⇒水揚げ高の増加や漁船の燃油補給などによる地域経済の活性化</p> <p>◆新規研修生を7名確保 <span style="float:right">&lt;&lt;-P4再掲&gt;&gt;</span></p>	<p>H22.1.17 大型かつお漁船2隻が地元で活餌を積み込み出港</p> <p>H21年から継続中の者と合わせて現在、例年の2倍以上の13名が研修中</p>	
<p>◎産地市場での競争性の向上 拠点市場の整備による産地市場での競争力の向上</p>		<p>H21年8月から新市場の整備に先行して市場事務所の整備に着手</p>	<p>◆老朽化が著しい市場の整備計画の策定(清水市場)</p>
<p>◎県漁協による「土佐の魚」への付加価値向上 流通販売事業に関する取組強化</p>		<p>「土佐の魚」を県漁業が直接供給 12月から週3回、10店舗に拡大</p> <p>11月、芸東地区からも出荷を開始</p>	<p>◆様々なチャネルを通じた販売の実施 ⇒6月に県内量販店との取引を開始</p> <p>◆各支所の集出荷体制のレベルアップ ⇒県内量販店と本格的に取引できる規模への体制整備</p> <p>◆量販店への派遣研修や販促活動の実践等 ⇒担当職員の資質の向上</p>
<p>◎養殖生産物の流通・販売の強化 養殖生産者グループの活動促進</p>		<p>マダイ養殖生産者3グループと県内民間企業4社による協議を踏まえ、グループ毎の活動計画を検討中</p>	<p>◆須崎地区:養殖生産者グループと県内民間企業による養殖生産物の販売促進、加工への取り組みに関する協議の場の設置</p> <p>◆宿毛地区:すくも清温協養殖部会が養殖生産物の販売活動に着手</p>
<p>◎土佐の魚の消費拡大 県産水産物の消費拡大</p>		<p>・量販店等100店舗以上でプレゼントキャンペーンを実施(1/29~3/14) ・民放3局で合計180回以上のCM放映(1/29~3/14) など</p> <p>・大阪市中央卸売市場の卸売業者、仲卸業者が来高し、県内の産地買受人、漁協と2月に交流会を実施予定 ・「土佐の魚PR推進活動パートナー店」を募集中(現在、27店舗が登録)</p>	<p>◆県内向けの対策 ⇒量販店等とのタイアップによるキャンペーンの実施、CM・新聞広告による県産水産物のPR、ホームページの作成、「高知県おさかなPR大使」の委嘱・活用 など</p> <p>◆県外向けの対策 ⇒消費地市場関係者と県内流通加工業者との交流会や現地視察の実施、県外観光客への県産漁産品にこだわった飲食店等の情報提供</p> <p>◆県漁協のマンパワーの強化 ⇒本所・支所への消費拡大担当及び販路拡大担当の配置(5名)</p>
<p>◎前処理加工・冷凍保管による供給 前処理加工・冷凍保管事業の推進</p> <p>地域の加工施設の整備</p>	<p>・芸東地域でのサバ加工 ・手結地域でのシラ加工 ・興津地域でのシラ加工 ・宿毛地域でのサバ加工等加工 など</p>	<p>◆前処理加工の事業化モデルの作成 ⇒魚種は8種、加工形態はフィッシュ、温度帯はキルド中心に絞り込んで、地域ごとの特性に応じた事業モデルを作成</p> <p>◆前処理加工等事業実証試験の実施 ⇒試作品の製造、評価に基づく製造工程、採算性等の分析</p> <p>◆事業化の芽だしとアクションプラン等への反映 <span style="float:right">&lt;&lt;-P2再掲&gt;&gt;</span> ⇒上記取組等を通じた漁協と民間企業の連携事業を支援</p>	<p>・養殖魚、天然魚ともに魚種が豊富で調達しやすい地域が最も有望</p>
<p>【予定どおりに進捗しなかったもの】</p> <p>◎漁獲物の安定確保 燃油高騰対策のエンジンリース事業の普及</p>	<p>◇市町村の義務負担が足かせとなり事業が普及せず ⇒市町村負担を任意に変更</p>	<p>・現在10名(当初予定の77%)がリース事業に申請中</p>	

産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【商工業分野】

項目	生産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流通・販売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎外貨を稼ぐ商工業 中核企業等の育成</p> <p>産業を支える技術人材の育成</p> <p>企業立地の推進</p> <p>成長が期待され潜在力のある分野(食品、天然素材、環境、健康福祉)への重点的支援</p> <p>漫画をはじめとする本県の特徴ある地域コンテンツをビジネスにつなげる取組の推進</p> <p>地域資源などの有効活用(産業振興推進総合支援事業費補助金の活用7件)</p> <p>工業製品の受注拡大の支援</p> <p>県内企業の海外展開の支援</p>	<p>出荷額90億円増の予定</p> <p>◆9件の企業立地が実現見込み。(うち2社食品加工) ⇒ 新規雇用400人(12月末時点:6件、180人) (H18~21新規雇用約2,000人工業品出荷額約1,200億円増 見込み)</p> <p>◆県内工場へのビジネスマッチングが実現(10件 出来高7億円)</p> <p>◆南国工業団地の造成に着手 造成完了後の完売に目途</p> <p>◆香南工業団地は詳細設計等を実施中</p> <p>◆工業団地のある南国市等15市町村でブロードバンド化の完了に目途</p> <p>地域AP</p> <p>地域AP</p> <p>地域AP</p>	<p>◆支援対象企業に30社を選定。2名のアドバイザーを設置し、個別支援。 ⇒9社にビジネスマッチングの相手先を紹介。ほか9社でマッチングの可能性を検討中。 ⇒その他、ものづくり補助金の採択、技術支援等 延べ31社を支援(1/18時点)</p> <p>◆技術研修に619人が参加&lt;H20:75人&gt;企業人材のレベルアップが図られた。 ←P4再掲</p> <p>◆4分野の研究会に156社が参加。専門家の派遣等により技術支援24件、販路開拓支援等26件(1/15時点) ←P3再掲 ⇒4件の事業化プランを作成(うちプラン4件を認定・補助金で支援)。平成22年度は21件が事業化予定</p> <p>◆高知県コンテンツ産業推進会議を設置、高知まんが・コンテンツビジネス創出セミナー&amp;創出塾を4回開催し98名が参加。(1/18時点)クリエイター実態調査の実施(650通配布290通回答ヒアリング調査12名) ⇒来年度の事業実施に向けた協力態勢が構築。実態調査の結果を来年度事業に反映。</p> <p>◆芋菓子の専用工場の整備[日高村] ⇒新規雇用5名(予定) ←P2再掲</p> <p>◆食品加工場(カット野菜等)の機能拡充[仁淀川町] ⇒新規雇用4名(予定) ←P2再掲</p> <p>など</p> <p>地域AP</p>	<p>◆まちの駅「情報ステーションおち(仮称)」の整備[越知町] ⇒新規雇用2名(予定)</p> <p>◆郷にこだわった商品を販売するファーストフード店舗の開設[中土佐町] ⇒新規雇用5名(予定) など</p> <p>◆商談会・見本市に42社2団体が出展。⇒成約1件、試作6件、商談中57件、見積依頼31件(11月30日現在)あり、成果が出始めている。</p> <p>◆貿易促進コーディネーターを4名配置。県内企業を延べ100社以上訪問し貿易活動を支援。←P1再掲</p> <p>◆シンガポール伊勢丹の四国フェアに6社参加。←P1再掲 ⇒3社6品目が1年間の定番商品化。</p> <p>◆海外商談会2回(韓国3社参加、香港6社参加)開催。←P1再掲 ⇒香港の商談会では、3社12品目が成約。</p> <p>◆その他、輸出促進勉強会(3回、計198名参加)、国内商談会(16社参加)を開催。上海シテイショップ(11社参加)、上海四国アンテナショップ(1社参加)を開設。←P1再掲</p> <p>地域AP</p>
<p>◎地域経済に貢献する商業の活性化 地域資源などの活用による商材開発</p> <p>高知市と生産地とのパイプの強化</p> <p>ネット市場への出店の支援</p>	<p>事業実施校が約66%増、協力企業が約2倍になり就職先に県内企業も候補に</p>	<p>◆産業振興アドバイザーの派遣(11月末現在 派遣予定回数222回)。派遣が完了した10件の地域アクションプランすべてにおいて、目標達成に向けて大変参考になったとの評価が得られた。←P4再掲</p> <p>◆スーパーバイザー(山本謙治、玉沖仁美、熊谷喜八の3氏)による流通・販路拡大等の支援が図られた。</p>	<p>◆高知市中心商店街にアンテナショップの設置を支援。2月19日(金)にオープン予定。←P1再掲</p> <p>◆eコマースセミナー5回開催し、延べ130社300名が参加(予定を含む1/18時点)。最新のeコマースに関する知識の普及を促した。</p>
<p>◎産業人材の育成&lt;再掲&gt; 新規高卒者の県内就職促進</p>	<p>◆事業実施校15校(含む計画)&lt;H20:9校&gt;、協力企業延べ105社(含む予定)&lt;H20:延べ56社&gt;12/28時点。高校生に県内企業を知ってもらうことにより、就職を考える際の選択肢が広がった。</p>		

産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【商工業分野】

項 目	生 産 ■掘り起こし ■担い手の育成 ■生産基盤の強化 等	加 工 ■付加価値の向上 ■素材の磨き上げ ■推進体制の整備 等	流 通・販 売 ■売り出し ■販路開拓 ■PR・情報発信 等
<p>◎建設業の新分野進出(再掲)</p> <p>建設業の新分野進出に向けた取組の促進</p>	<p>◆建設業新分野進出支援体制説明会に建設業55社59人が参加、個別相談会に12社参加、8カ所で建設業支援協議会が設立。 ⇒新分野に3社が進出。33社が進出に向けて準備中。</p>		

13  
産業振興計画の取り組み状況(主な取り組みの結果、成果等)

【観光分野】

項目	掘り起こし	磨き上げ	売り出し
<p>1. 「土佐・龍馬であい博」の成功に向けて</p> <p>◎効果的な観光PR、プロモーション活動を展開</p> <p>◆「龍馬伝」を活かしたPR、プロモーション活動を展開</p>	<p>高知の強みである人、食、歴史、自然などを生かして、これまでの取り組みを継続し、さらに高知の東から西まで全体の魅力を高めていく</p>	<p>◆「土佐・龍馬であい博」の受入態勢が充実 ⇒メイン会場「高知・龍馬ろまん社中」、併設する高知観光情報発信館「とさてらす」 サテライト会場の3施設「安芸・岩崎弥太郎こころざし社中」、「土佐清水・ジョン万次郎くろしお社中」、「ゆすはら・維新の道社中」が完成</p> <p>◆JTB エース(待ちゆうき土佐の国) ・近ツー メイト(龍馬への道) など これまでの主要観光地に加え、メイン・サテライト会場を周遊するプランも登場</p> <p>長崎・福岡(8月)、岡山・広島(10月)、大阪・兵庫・京都・徳島・香川・愛媛(11月)、島根・鳥取・岐阜・愛知(12月)で実施</p> <p>ラッピングバス(土佐電、県交通) ・H21. 9～H22. 12まで運行 ラッピング列車(JR四国) ・H21. 11～H22. 12まで運行 ラッピングジェット(ANA) ・H21. 10～H22. 9まで運行</p> <p>原宿表参道元氣祭スーパーよさこい、ドリーム夜さ来い(東京)、にっぽんど真ん中まつり(名古屋)でのPR</p> <p>BSテレビ(BS日テレ):「こじやんと土佐流～土佐浜街道を行く～」(12月13日放送、22年1月31日、3月下旬放送予定) 旅行雑誌:機内誌特集記事(JAL:22年1月～、ANA:22年3月～) まっふる高知('10年号)、るるぶ高知('10年号)ほか</p>	<p>◆ポスター、パンフレットによるPR(5月～)、旅行会社に対してモニターツアーを実施。 ⇒高知県を先行とするツアー商品造成(約70:10月～)が実現。</p> <p>◆「おーい! 龍馬」の主人公がオフィシャルスポンサーに(7月)</p> <p>◆ガイドブック等の作成 10月:土佐名所図会、12月:ガイドブック(70,000部) 公式ホームページの開設(11月～)</p> <p>◆PRキャラバンの実施 県外各地でのPRキャラバンの実施(9月～) ラッピングバス・ラッピング列車[龍馬博]・ラッピングジェット[龍馬伝]の運行</p> <p>◆テレビ、雑誌等による全国へのPR(10月～)</p> <p>◆大河ドラマ「龍馬伝」の放映開始、「土佐・龍馬であい博」の開幕(22年1月～) ⇒延べ宿泊者数や観光施設入込客数が増加。 ・延べ宿泊者数 (H21. 7月～9月):対前年同期比: +2.6%(全国:△2.1%) ・観光施設入込客数 (H21. 7月～11月):対前年同期比: +6.8% ・龍馬の生まれたまち記念館入館者数:対前年同期比: +43.6% ・坂本龍馬記念館入館者数:対前年同期比: +40.4%</p> <p>・西部～中央エリア 6月:計2回実施 ・東部～中央エリア 7月:1回実施</p>
<p>◎県内の観光地を結ぶ交通手段(二次交通)を確保</p> <p>◆周遊バスの運行体系を強化</p> <p>◆公共交通機関の利用を促進</p>	<p>MY遊バス ・JR高知駅、はりまや橋、五台山牧野植物園、桂浜を結ぶ周遊バスで、H16. 7月から運行中 ・休日運行(土日祝・GW・夏休み、正月、春休み)のみであったが、11月1日から平日を含めた毎日運行を開始 ・高知市中心部の龍馬ゆかりの地や商店街を巡る"まちあるき"につなげるために高知駅～上町～五台山・牧野植物園～桂浜の新しいルートを11月1日から開始</p> <p>送迎タクシー運行(定期観光バス 西部コースの組替) ・中村駅から土佐清水サテライト会場及び万次郎生誕地を結ぶ送迎タクシー 運行期間:22年1月16日～23年1月10日</p> <p>駅から観光タク ・JR主要駅から低料金で観光地を巡るタクシープラン</p>	<p>◆高知市「MY遊バス」新ルートで毎日運行を開始(11月1日～)</p> <p>◆周遊観光バスの新規運行(東部海岸、高知市内)を開始(22年1月16日～)</p> <p>◆土佐清水サテライト会場無料送迎タクシーを新規運行(22年1月16日～)</p> <p>◆JR四国「駅から観光タク」運行開始(のいち駅、後免駅、伊野駅、佐川駅、須崎駅:10月1日～22年3月31日)(高知駅:22年1月16日開始)</p> <p>◆周遊観光タクシーの運行(20年12月から、5月に2地域新規運行開始)</p>	<p>1月(1日～17日)休日平均123人(対前年度比51.2%増)</p> <p>ガイド付観光バス(土佐・龍馬であい博号) 高知市内コース ・高知駅発着の高知城、五台山牧野植物園、桂浜など高知市内の主要観光スポットや坂本龍馬記念館など龍馬ゆかりの地を巡る観光バス 運行期間:22年1月16日～24年3月31日</p> <p>観光周遊バス 高知東海岸コース ・土居廓中、モネの庭など東部の主要観光スポットや中岡慎太郎館、岩崎弥太郎生家などを巡る観光バス 運行期間:22年1月16日～23年1月10日</p> <p>周遊観光タクシー ・「観光ガイドタクシー」を活用し、駅、空港を発着地とする主要観光地を巡るタクシープラン ・東部、中部、西部でコース設定し、タクシー会社が運行 ・21年1月から西部エリアで運行開始、12コース設定(中村駅発7コース、宿毛駅発5コース) ・東部エリア:香南・香美エリア(5月から運行開始)</p>

【観光分野】

項目	掘り起こし	磨き上げ	売り出し
<p>◎観光客の受入態勢を充実 (観光資源の磨き上げとおもてなし人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆広域観光周遊ルートづくりを支援</li> <li>◆まち歩き観光などを支援</li> <li>◆旅行の動機づけとなるイベント等を企画、イベントを開催</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光ガイドタクシーを活用した周遊観光を推進</li> <li>◆観光ガイドを育成、充実</li> <li>◆PR戦略づくり等にあたって専門家(アドバイザー)を活用</li> </ul>	<p>◎地域AP関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆世界ジオパーク認証に向けた取組(室戸市) 世界ジオパーク認証を受けることによる交流人口の拡大 ⇒新規雇用1名</li> <li>◆森林鉄道遺産を活用した取組 (奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村) 森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</li> <li>◆仁淀川流域を中心とした世界ジオパーク認証に向けた取組 (佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、橋原町) 世界ジオパーク認証を受けることによる交流人口の拡大</li> </ul>	<p>◎地域AP関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆安芸広域体験型観光旅行商品化の取組(安芸市) 体験型観光の旅行商品化、効果的な販売及び受け入れ体制の確立 ⇒新規雇用1名</li> </ul>	<p>◎地域AP関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆中岡慎太郎館を核とした観光振興と地域産品販売拡大の取組(北川村) ～「龍馬伝」を活かした交流人口の拡大～ 中岡慎太郎館を核とし、「龍馬伝」を活かした交流人口の拡大</li> <li>◆高知市観光遊覧船事業(高知市) 観光遊覧船を1隻追加導入し、ツアー客への受入体制を充実させる ⇒新規雇用1名</li> </ul>
<p>◎観光客の受入態勢を充実 (観光資源の磨き上げとおもてなし人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆広域観光周遊ルートづくりを支援</li> <li>◆まち歩き観光などを支援</li> <li>◆旅行の動機づけとなるイベント等を企画、イベントを開催</li> </ul>	<p>◎観光客の受入態勢を充実 (観光資源の磨き上げとおもてなし人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光ガイドを育成、充実</li> </ul>	<p>◎観光客の受入態勢を充実 (観光資源の磨き上げとおもてなし人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光ガイドを育成、充実</li> </ul>	<p>◎観光客の受入態勢を充実 (観光資源の磨き上げとおもてなし人材の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆観光ガイドを育成、充実</li> </ul>

◆観光周遊ルートの整備

◆観光案内板・誘導標識整備(23市町村161箇所)

◆季節ごとの核になるイベントを実施。  
 (夏)よさこい祭り(高知城演舞場を増設)  
 (秋)龍馬関係のイベントを拡充して実施  
 ・桂浜親月の夕べ～龍馬と愛でる月の宴～  
 (10月2日～4日、11月1日～3日)  
 ・龍馬に大接近(10月17日～12月6日)  
 (冬)土佐・龍馬ゆめ燈籠(12月5日～26日)

◆観光ガイドタクシーの育成  
 高知県観光ガイドタクシー認定式を実施。認定講座を修了し、本年度に認定試験に合格した83名に認定証とステッカーを発行。(11月20日)  
 ⇒観光客へのきめ細かなサービスを提供することで、観光客の満足度が向上。

◆観光ガイドレベルアップ研修を実施:9団体

◆観光ガイド養成研修を実施:4団体

◆観光ガイド新規立ち上げ研修実施:4団体  
 ⇒観光ガイド登録団体数が増加し、「土佐・龍馬であい博」の受入態勢が充実。

◆アドバイザーによる研修会等を実施(体験プログラムインストラクター養成講座)  
 ⇒全体の統一したコンセプトが明確化。インストラクターや観光ガイドのレベルアップが図れた。

◆イベントの実施。  
 ・土佐・志士めぐり(8月1日～11月30日)  
 ・博物館学芸員巡回講座「幕末ゆめ道場」  
 (8月29日～22年3月27日)  
 ・幕末維新の土佐「志の時代展」  
 (10月10日～23年1月:県内各文化施設)

高知市、安芸市、佐川町など、12月末まで計6回実施  
 参加者:383名  
 講座内容  
 ・幕末土佐と龍馬  
 ・弥太郎の夢とゆかりの人たちほか

観光ガイドタクシー認定制度  
 ・接客技術の資質向上、より専門性の高いワンランク上の観光知識を有する「こうち観光ガイドタクシー」の養成を目的とした認定制度  
 ・認定者 186名(H19 127名 H20 59名)

高知SGG善意通訳クラブ他8団体  
 17回実施、参加者263名

須崎サービスエリア構想推進委員会他3団体が実施及び計画中

6月  
 ・高知市で講演会実施、参加者220名  
 8月  
 ・西部地域で実践者研修を実施、参加者150名  
 9月  
 ・東部、中部地域で実践者研修を実施、参加者80名  
 11月  
 ・東部、中部地域で実践者研修を実施、参加者180名

高知市観光協会他3団体  
 8回実施、参加者401名

大型バスツアー客(30名程度)にも対応可能に!

## 【観光分野】

項 目	掘り起こし	磨き上げ	売り出し
◆観光圏整備事業を導入			◆「四万十・足摺エリア(幡多地域)観光圏」整備事業を今年度事業着手。 ⇒観光振興の連携の枠組みが確立。全国的な知名度が向上。 ・観光圏クーポン付きガイドブック作成事業 ・観光圏地産地消メニュー開発・販売ロゴ作成事業 ・観光圏体験等プログラム開発・受発注システム開発事業 ・観光圏広域周遊ルート作成事業 ・観光圏人材育成事業 ・観光圏観光案内板設置事業 ・QRコード等を利用した観光圏情報提供システム開発事業 ・観光博覧会等出展事業(アンケートによるモニタリング数約770人)